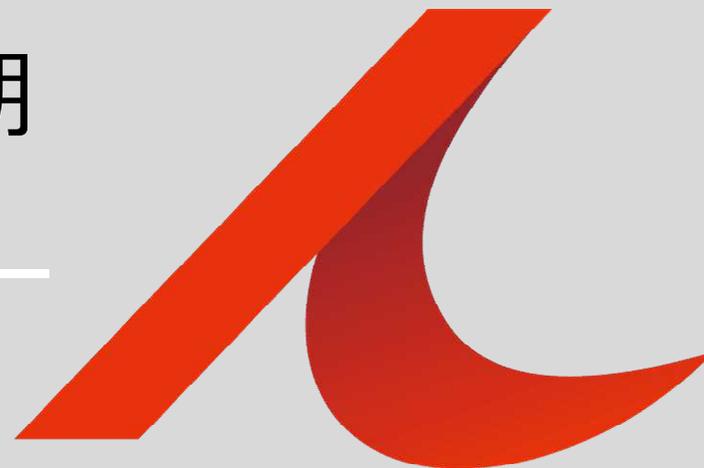


2023年3月期第2四半期 決算説明資料

株式会社愛知銀行
2022年11月14日



目次

業績ハイライト	P2
損益の状況	P3
資金利益	P4
役務取引等収益	P5
預金・貸出金の状況	P6
与信管理の状況	P7
有価証券、自己資本比率	P8
業績予想	P9
【資料】あいちFG業績予想・株主還元方針・配当予想	P10
【資料】愛知銀行の2023年3月業績予想	P11
【資料】中京銀行の2023年3月業績予想	P12

業績ハイライト

- 連結、単体とも増収増益、中間期計画値を上回る結果。
- 経常利益、中間純利益は連結、単体とも過去最高値を更新。

連結

(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期		2022年度 中間期計画	計画比 増減額	計画比 達成率	
			前年同期比 増減額	前年同期比 増減率				
経常収益	268	268	310	+42	15.8%	—	—	
経常利益	30	66	88	+22	33.4%	75	+13	118.3%
親会社株主に帰属 する中間純利益	21	45	62	+17	37.9%	53	+9	117.1%

単体

(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期		2022年度 中間期計画	計画比 増減額	計画比 達成率	
			前年同期比 増減額	前年同期比 増減率				
経常収益	224	225	268	+43	19.3%	—	—	
経常利益	28	64	87	+22	35.1%	74	+13	117.7%
中間純利益	21	44	61	+17	38.6%	52	+9	118.0%

損益の状況

- 貸出金利息の増加等により資金利益は増加し、役務取引等利益の減少や経費の増加があったものの、実質業務純益は前年同期比 1 億円増加。
- 株式売却益の増加により経常利益は増加し、計画比進捗も順調。

損益の状況

(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期		2022年度 計画	進捗率
				前年同期比		
業務粗利益	164	189	193	+4	378	51.1%
資金利益	144	162	168	+6	320	52.7%
役務取引等利益	23	30	28	▲1	62	45.5%
経費	126	122	125	+2	250	50.0%
人件費	67	64	64	+0	130	49.6%
物件費	49	48	49	+1	102	48.8%
実質業務純益	37	67	68	+1	128	53.3%
コア業務純益	40	70	68	▲1	130	52.4%
コア業務純益(除く投信解約益)	33	64	58	▲5	117	50.1%
経常利益	28	64	87	+22	153	56.8%
中間(当期)純利益	21	44	61	+17	108	56.8%

資金利益

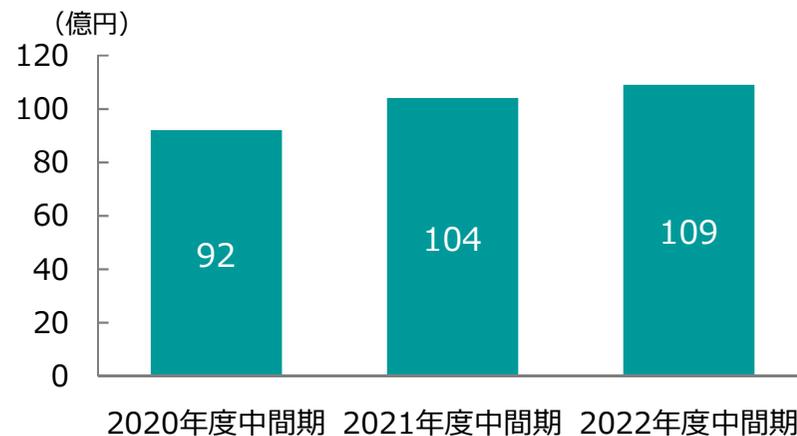
- 法人向け、個人向けとも貸出金の増強を図り、貸出金利息は順調に増加。
- 有価証券利息配当金は機動的なポートフォリオの調整により安定的に収益を確保。

資金利益の内訳

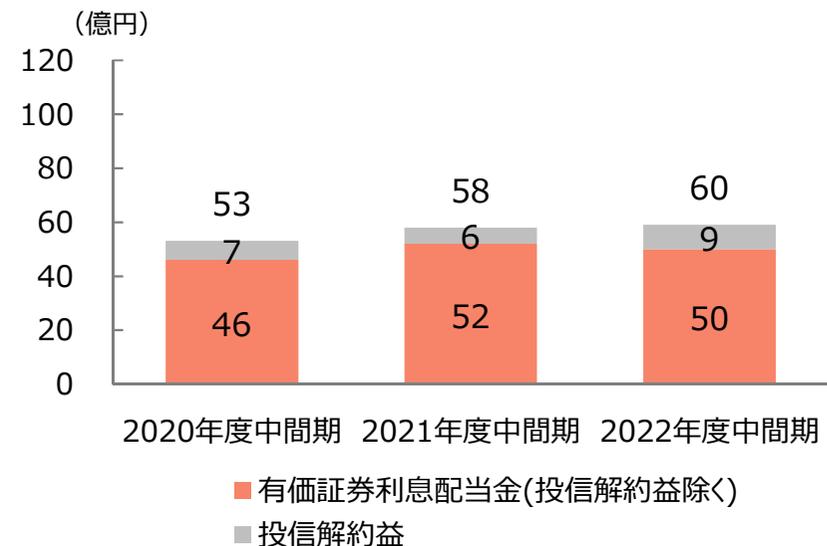
(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期	前年同期比
資金利益	144	162	168	+ 6
貸出金利息	92	104	109	+ 4
預金利息(▲)	1	1	1	+ 0
有価証券利息配当金	53	58	60	+ 1

貸出金利息



有価証券利息配当金



役務取引等収益

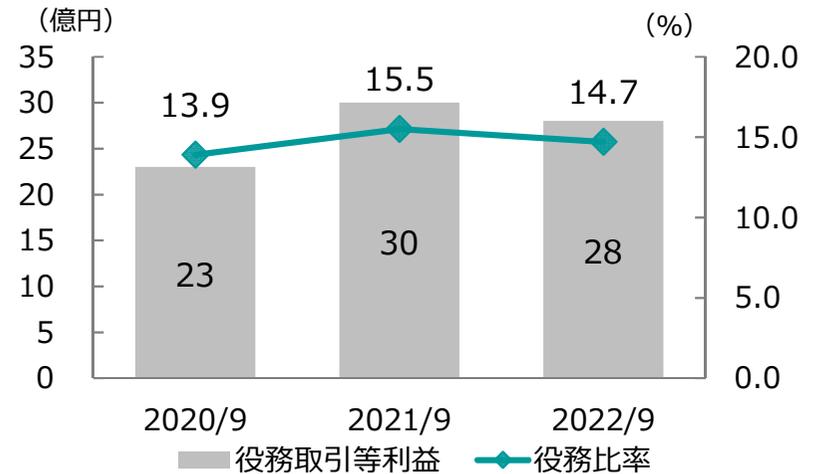
- 投資信託手数料の減少により預かり資産関連手数料は減少。
- ソリューション関連手数料はM&A・事業承継やビジネスマッチング等の強化により増加。

役務取引等利益

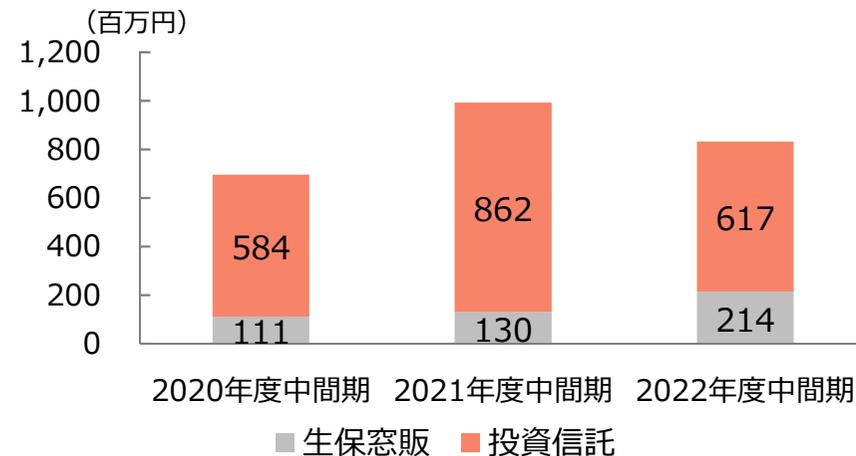
(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期	前年同期比
役務取引等利益	23	30	28	▲1
役務取引等収益	38	46	45	▲0
預かり資産関連手数料	6	9	8	▲1
ソリューション関連手数料	6	8	10	+1
住宅ローン手数料	2	4	4	+0
役務取引等費用	14	16	16	+0

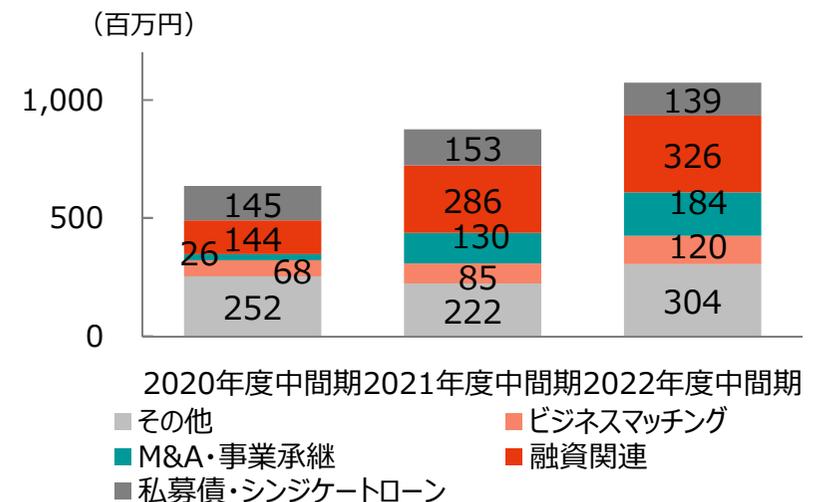
役務比率



預かり資産関連手数料



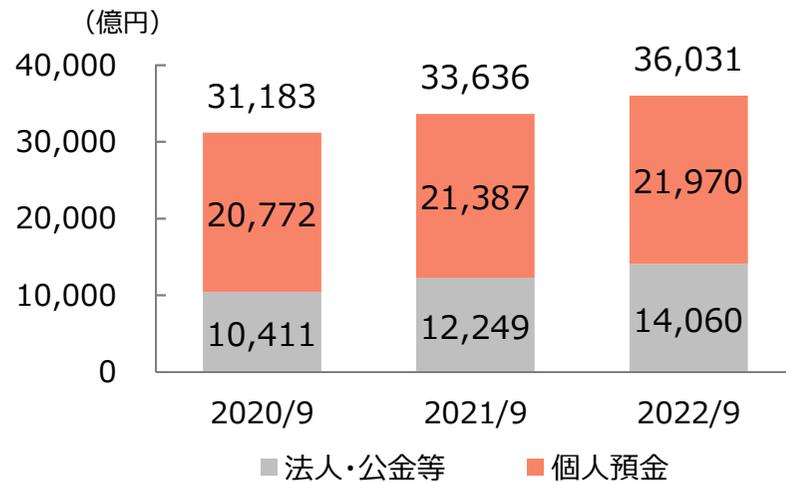
ソリューション関連手数料



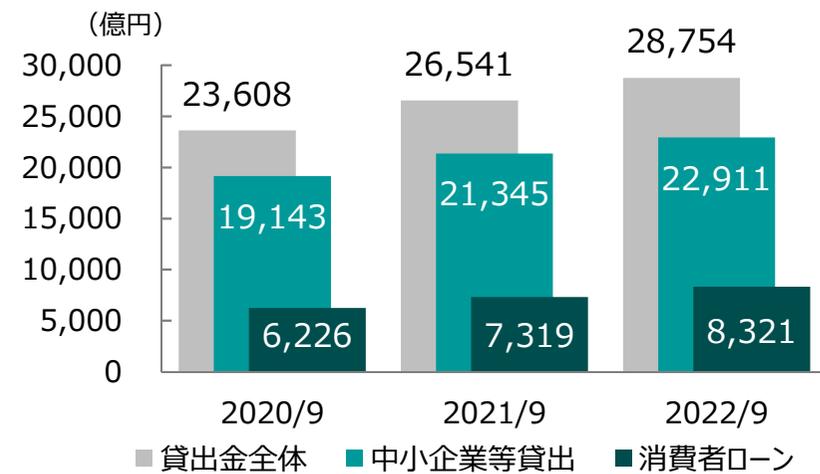
預金・貸出金の状況

- 預金、貸出とも順調に増加。個人取引メイン化の入り口として住宅ローンを積極的に推進。
- 貸出金利回りは低下傾向が続いている。

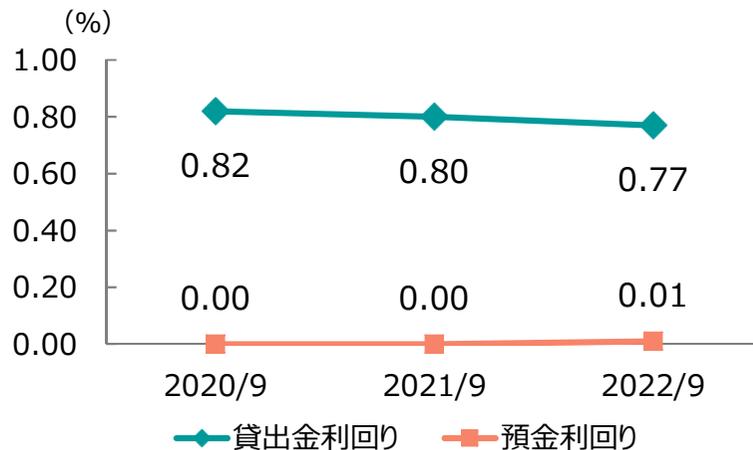
預金残高



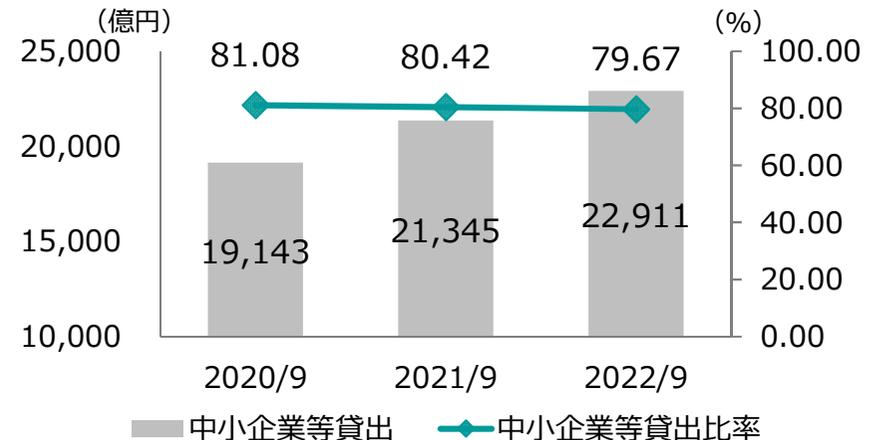
貸出金残高



利回り推移



中小企業等貸出比率



与信管理の状況

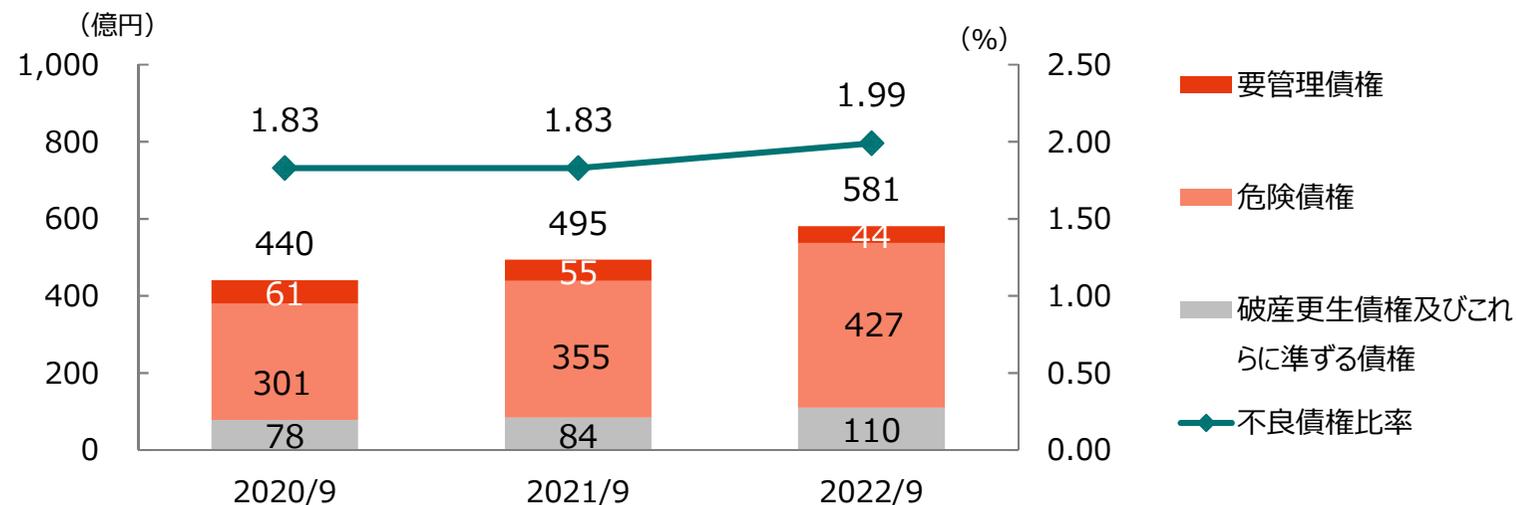
- 大口与信先の倒産やランクダウンにより個別貸倒引当金繰入額は増加。一般貸倒引当金繰入額も増加し、不良債権比率は上昇したものの、依然問題ない水準。

信用コストの状況

(単位：億円)

	2020年度 中間期	2021年度 中間期	2022年度 中間期	前年同期比
信用コスト	33	11	16	4
個別貸倒引当金繰入額	15	9	12	2
一般貸倒引当金繰入額	17	2	3	1
偶発損失引当金等	0	0	0	0

金融再生法開示債権および不良債権比率



有価証券、自己資本比率

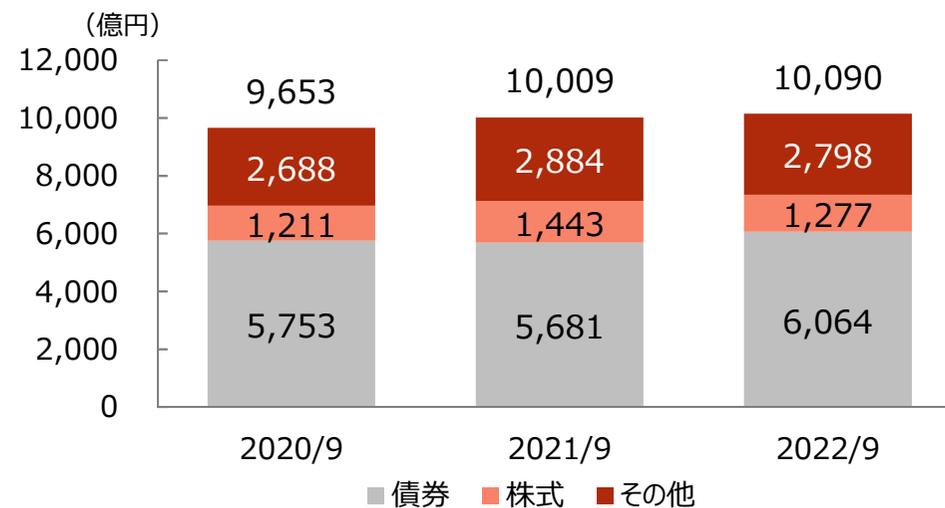
- 株式市場の軟調な推移や世界的な金利の上昇の影響等により、有価証券評価益は大きく減少。
- 自己資本比率はリスクアセットの増加により低下も十分な水準を確保。

有価証券評価損益

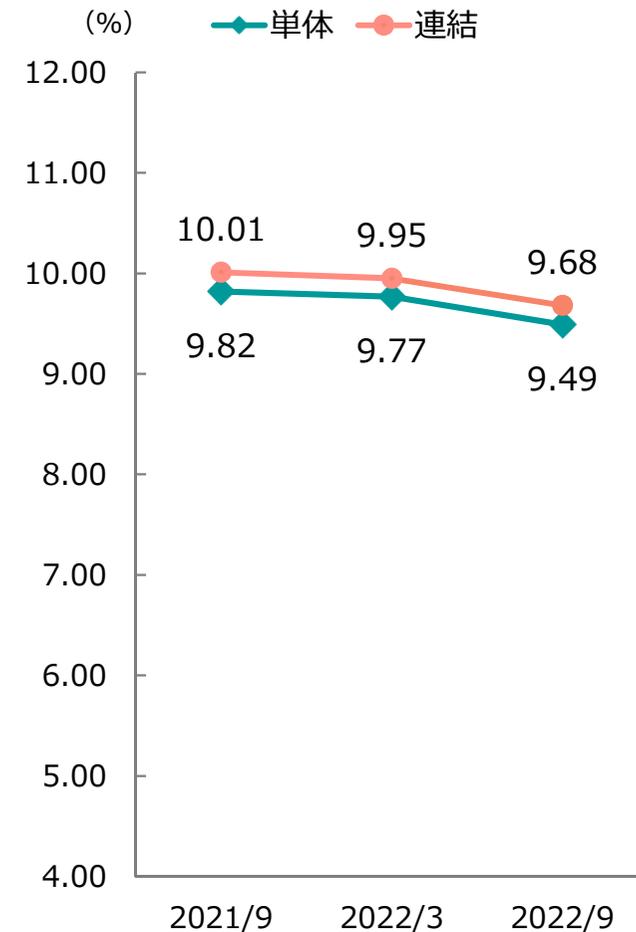
(単位：億円)

	2020年 9月末	2021年 9月末	2022年 9月末	前年同期比
有価証券評価損益	609	910	307	▲602
株式	553	749	513	▲235
債券	22	17	▲93	▲110
外国債券・その他	33	143	▲112	▲256

有価証券残高の構成



自己資本比率



業績予想

- 経営統合による費用や有価証券評価損の処理に伴う損失計上等を見込み、通期予想は当初計画から大きく減少。ただしコア業務純益は13億円の減少にとどまると予想。

連結

(単位：億円)

	2022年度 中間期	2022年度 通期計画	2022年度 通期予想	計画比
経常利益	88	156	34	▲122
親会社株主に帰属 する中間純利益	62	109	15	▲94

- ① 第2四半期までの業績は当初計画を上回る進捗で、連結当期純利益109億円は達成できる水準で推移。
- ② しかしながら、統合費用（広告宣伝費や今後実施する店舗再編に伴う費用等）の増加、含み損となっている債券ポートフォリオの再構築、足元の経済環境等を踏まえた貸倒引当金の繰入れを実施し、銀行合併を前に、より堅実な財務状況を戦略的に作り出すもの。

単体

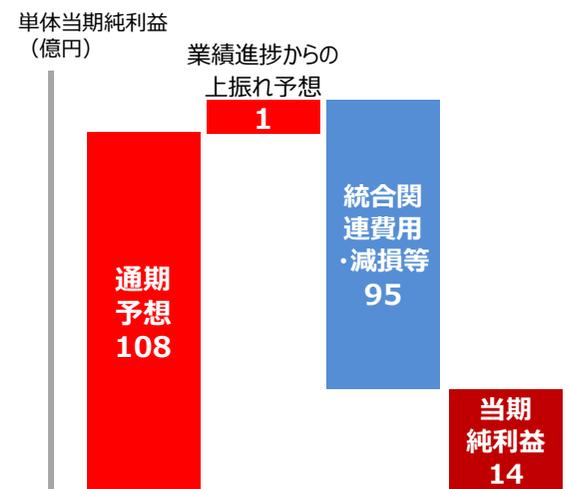
(単位：億円)

	2022年度 中間期	2022年度 通期計画	2022年度 通期予想	計画比
実質業務純益	68	128	56	▲72
コア業務純益	68	130	117	▲13
経常利益	87	153	31	▲122
当期(中間)純利益	61	108	14	▲94

<参考>

②の要因が無い場合の 通期予想	120
	121
	154
	109

2023年3月期通期単体業績予想

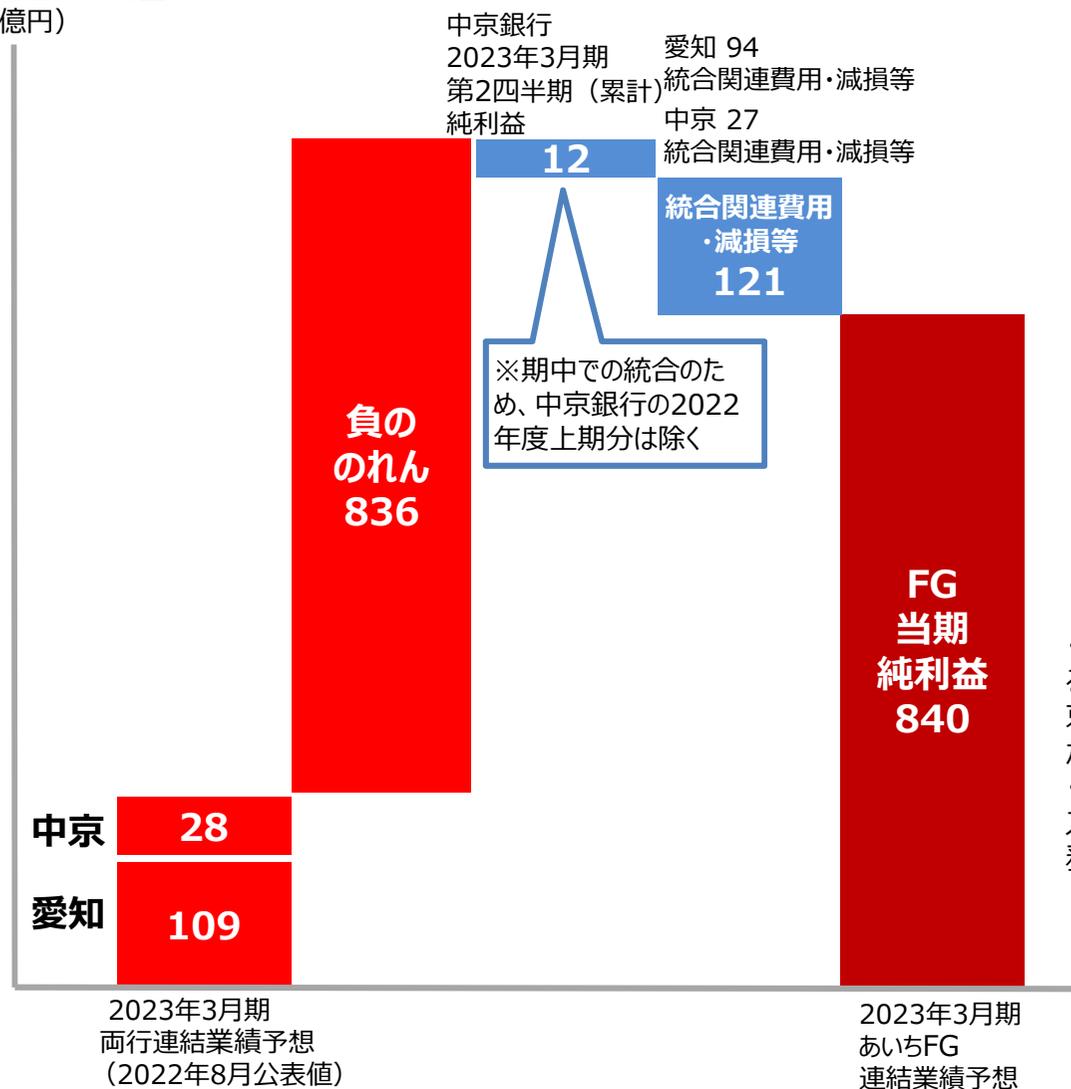


※業績予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

【資料】 あいちフィナンシャルグループ2023年3月の通期連結業績予想 ならびに株主還元方針（配当政策）および2023年3月期の配当予想

1. 2023年3月期通期連結業績予想

連結当期純利益
(億円)



2. 株主還元方針（配当政策）

収益基盤の強化に向けた内部留保を確保しつつ株主に対する還元を通して資本効率の向上を図るため、1株につき100円の年間配当を下限とし、自己株式取得についても柔軟に実施していくことを基本方針とします。

具体的には、配当金と自己株式取得合計の総還元性向30%を目処とします。

※負ののれん発生益は除く。

3. 2023年3月期配当予想

2023年3月期の配当につきましては、グループの通期業績予想や財務状況を踏まえ、1株当たり50円の期末配当を実施させていただく予定です。

「負ののれん」とは

・持株会社の連結財務諸表において、会計上の被取得企業である中京銀行の資産・負債は時価で計上され、持株会社による「中京銀行株式取得額」と同行の「時価ベースの純資産額」との差額が「負ののれん」として発生します。

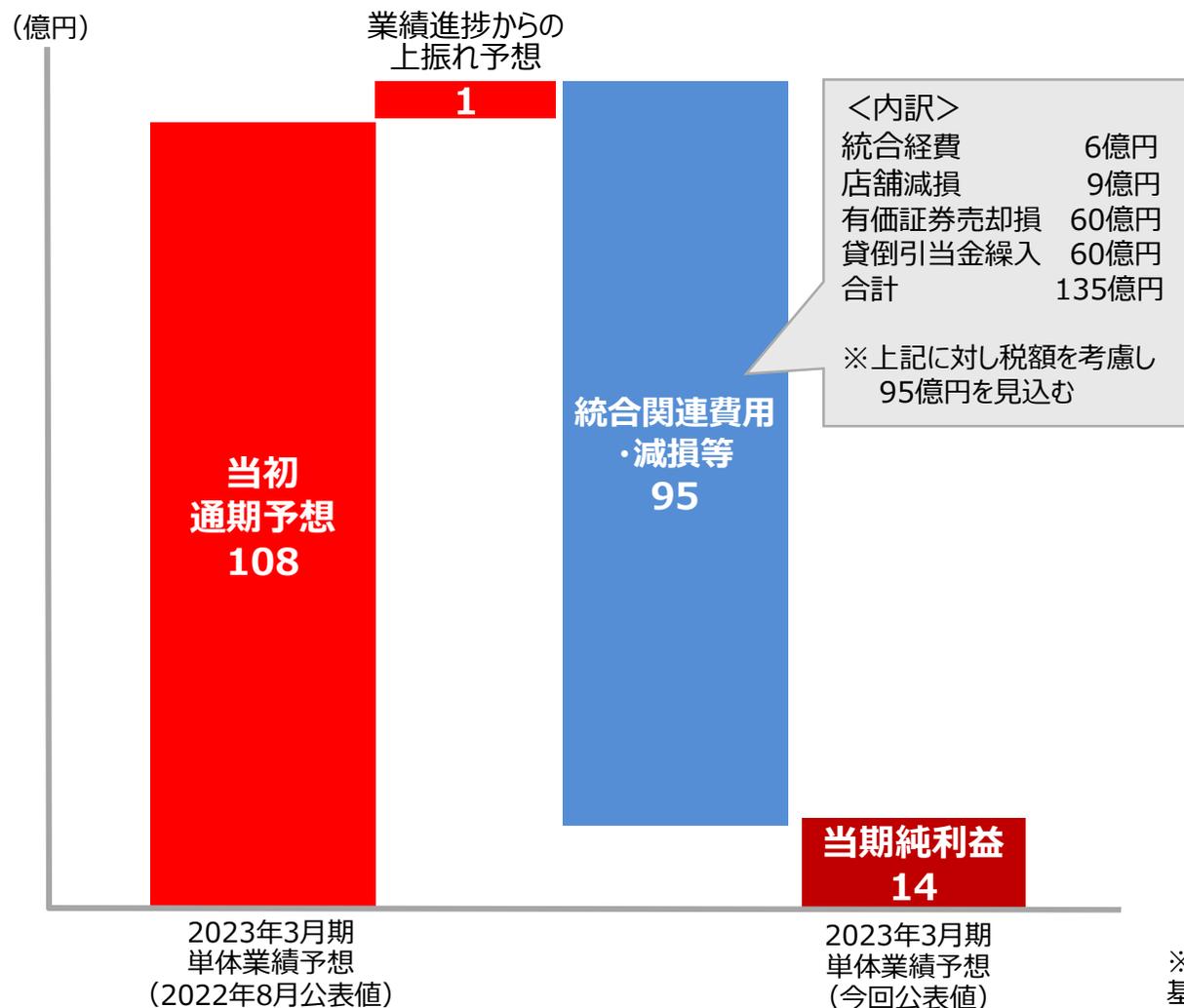
・本経営統合では、「中京銀行株式取得額」が同行の「時価ベースの純資産額」を下回ることから、その差額が持株会社の連結財務諸表において、「負ののれん」として発生する見込みです。

株式取得額 < 時価ベースの純資産額 ⇒ 負ののれん
株式取得額 > 時価ベースの純資産額 ⇒ 正ののれん

※業績予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

【資料】 愛知銀行の2023年3月期業績予想

2023年3月期通期単体業績予想（当期純利益）

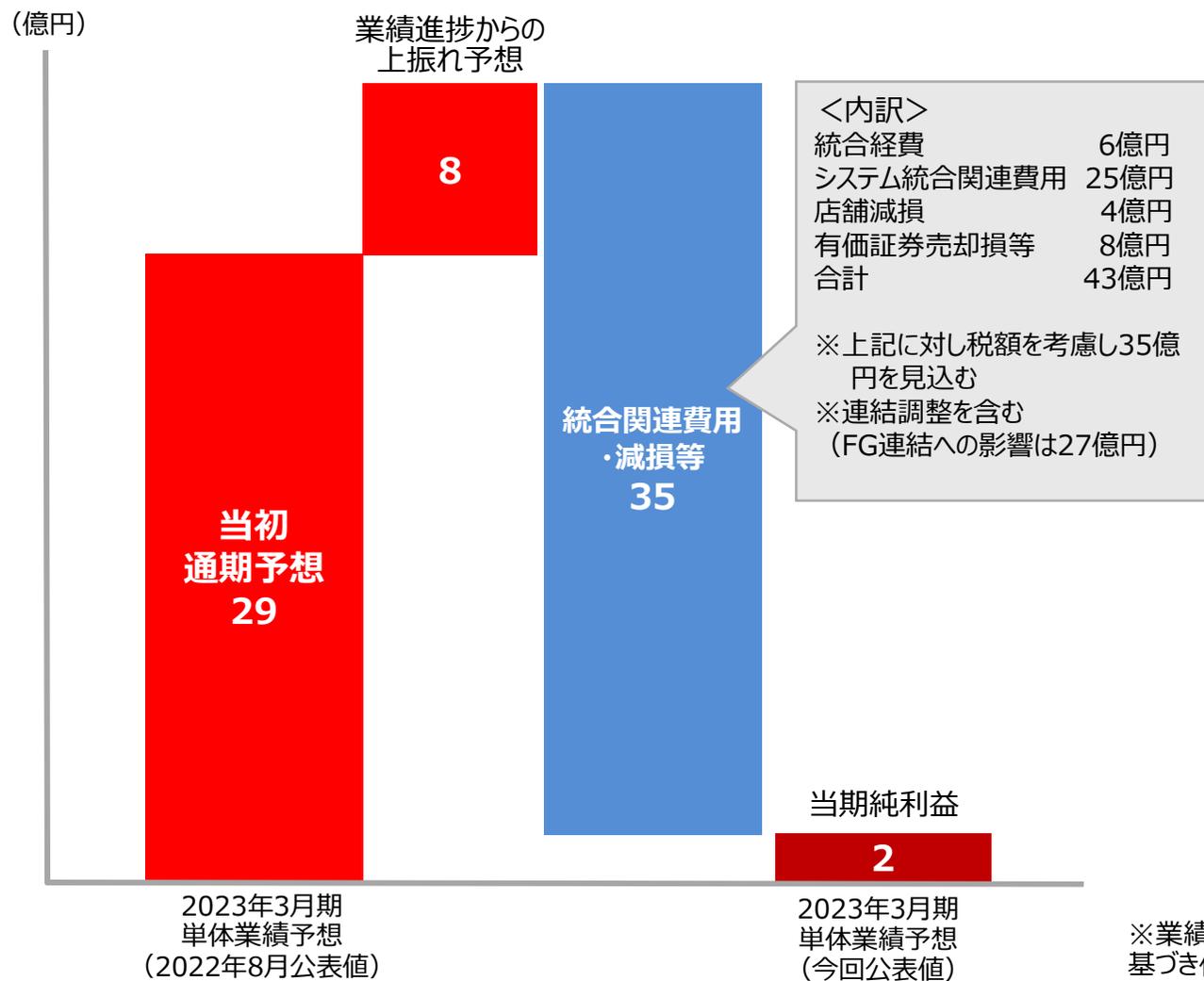


統合経費（広告宣伝費や今後実施する店舗再編に伴う費用等）の他、グループ内でバランスをとった有価証券運用に向けた債券ポートフォリオの再構築、足元の経済環境等を踏まえた貸倒引当金の繰入れを実施し、銀行合併を前に、より堅実な財務状況を戦略的に作り出すもの。

※業績予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

【資料】 中京銀行の2023年3月期業績予想

2023年3月期通期単体業績予想（当期純利益）



約2年後の銀行合併に先行して発生するシステム統合関連費用や、今後実施する店舗再編に伴う費用、統合経費等を今期計上するもの

※業績予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意ください。

<お問合せ先>

株式会社愛知銀行 総合企画部 広報グループ

TEL : 052-242-2237

FAX : 052-251-7606

URL : <https://www.aichibank.co.jp/>